

日中科学技術

No. 23

1981.10.20

発行所

日中科学技術交流協会

〒113 東京都文京区湯島3-1-6
小宮ビル2F 電話 03(836)4830

第10回常任理事会についての報告

9月18日、本郷学士会館で第10回常任理事会が開かれた。

出席者は次のとおりであった。

(会長)有山兼孝, (常任理事)越智勇一, 鹿取一男, 野上茂吉郎, 橋口隆吉, 和達清夫, 渡辺武男, (幹事)小川智哉, 鈴木昭憲, 相馬胤和, (事務局)肥後孝

次の諸議題が審議された。

1. 会長報告

(1) 井上春成監事と湯川秀樹理事の御逝去に際して協会から弔電を送り生花を供えたことが報告された。出席者一同、両役員を偲んで黙祷を捧げた。

(2) 先頃の会長訪中の際、協会と中国教育部の協力によって、英中日専門用語辞典の作製に努力することがとり決められたが、この作業のその後の経緯について報告された。中国側の協力が順調に進めば約1年ぐらいで原稿が完成される予定である。

(3) 先頃会員に配布、御依頼した、「日中科学技術の交流・協力に関する交流形態別意見・要望調査」に対しては、現在までに8件の回答が寄せられており、目下整理検討中である。

また、「科学技術専門家の自費訪中希望調査」に対しては、現在までに2件の御提案があった。その実現に向けて中国側と交渉中である。

(4) 「青少年科学普及展覧会」の件と「青少年科学交流団」に関してはなお中国側関係方面と連絡検討中の段階である。

(5) 「針灸交流」については、中国科学技術交流協会と折衝の結果、具体案がほぼでき上がってきた。御関心のある会員の方々は協会事務局に御連絡いただきたい。

2. 協会のあり方について

ここ数回にわたって、常任理事会では、協会の法人化の是非、その可能性の問題をめぐって協会のあり方の問題が論議されているが(問題点については、会報No.20の有山会長の論説を参照されたい)、今回もかなりの時間をかけてさらに議論が深められた。

日中交流ニュース

農業気候資源ならびに作物生態学視察団の来日

中国科学院自然資源総合考察委員会の劉厚培(土壤資源, 農業資源, 生態), 李昌華(森林土壤, 森林生態), 候光良(農業気候)の3氏は、協会の招待により、8月12日から8月31日までわが国に滞在し、次の諸施設を見学して帰国された。

東京大学理学部植物学教室, 同農学部農業生物学, 静岡県甘橘試験場, 静岡県茶業試験場, 大阪府立大学農学部農業工学科, 大阪市立大学理学部生物学科, 京都大学農学部, 同理学部, 九州農業試験場, 熊本県農業試験場, 同果樹試験場, 筑波大学生物科学系, 農業技術研究所。

中国科学技術協会 自動化学会代表団の来日

中国自動化学会理事長、北京信息控制研究所所長の宋健氏を団長とする上記代表団一行16名は、協会の招待により、8月21日から9月8日までわが国に滞在され、8月24日から28日まで京都市ホテル・ニューキョウトで開催された国際自動制御連盟第8回会議に出席、その後、以下の諸施設を訪問見学して帰国された。

豊田自動車工場、日本IBM、山武ハネウエル伊勢原・寒川工場、東京工業大学工学部、日立製作所中央研究所、北辰電機製作所、東芝総合研究所。

最近の中国科学技術

中国科学院学部委員名簿

[北京3月29日発新華社=中国通信]中国科学院学部委員名簿(新委員283人、元委員117人)は次の通り。(配列は姓の筆画順による。*印のあるのは元委員)

物理学数学部学部委員(79人)

干敏、王元、王竹溪*、王承書、王淦昌*、王綏昭、王湘浩*、方励之、葉叔華(女)、馮康、馮端、鄧稼先、廬鶴紱、朱光亞、朱洪元、華羅庚*、江沢涵*、曲欽岳、莊逢甘、閔肇直、沈元、吳文俊*、吳式樞、李正武、李林(女)、李国平*、李蔭遠、蘇步青*、何沢慧(女)、何祚庥、嚴濟慈*、蕭健、谷超豪、余瑞璜*、汪德昭*、張文裕*、張鈺哲*、楊樂、楊澄中、周光召、周同慶*、周培源*、林同驥、陸啓鏗、陸学善*、金建中、陳彪、陳景潤、胡寧*、胡世華、胡濟民、柯召*、施汝為*、姜伯駒、段学復*、趙忠堯*、洪朝生、錢三強*、錢偉長*、錢学森*、錢臨照*、唐孝威、郝柏林、徐叙瑗、夏道行、談鎬生、黃昆*、黃祖洽、章綜、程開甲、程民德、謝希德(女)、謝家麟、葛庭燧*、彭桓武*、管惟炎、戴元本、戴伝

曾、魏崇爵、

化学部学部委員(67人)

王序、王葆仁、申泮文、盧佩章、盧嘉錫*、田昭武、馮新德、劉有成、朱亜傑、紀育澧*、沈天慧(女)、蘇元復、嚴東生、蕭倫、吳学周*、吳征鑑、吳浩青、邢其毅、何炳林、時鈞、閔恩沢、汪家鼎、汪猷*、汪德熙、張大煜*、張存浩、張青蓮*、楊石先*、武遲、陳茹玉(女)、陳冠米、陳榮梯、陳家鏞、柳大綱*、查全性、趙宗燠*、侯祥麟*、錢人元、錢志道*、錢保功、高小霞(女)、高怡生、高濟宇、高振衡、高鴻、徐光憲、唐有祺、唐敖慶*、倪嘉纘、顧翼東、袁翰青*、黃子卿*、黃維垣、黃量(女)、黃耀曾、曹本熹、梁樹權*、梁曉天、郭慕孫、郭燮賢、彭小逸、嵇汝運、蔣麗金(女)、蔣明謙、蔡啓瑞、蔡鏞生*、戴安邦、

生物学部学部委員(89人)

馬世駿、方心芳、王世真、王伏雄、王志均、王応暎*、王善源*、王德宝、貝時璋*、葉桔泉*、馮德培*、朱壬葆、朱既明、朱祖祥、莊孝德、劉思職*、劉建康、伍猷文*、吳中倫、吳階平、吳旻、吳英愷*、吳征鎰*、沈允鋼、沈其震*、沈善燭、李慶遠、李連捷*、李竟雄、湯佩松*、汪堃仁、楊簡、鄒岡、鄒承魯、陳中偉、陳世驥*、陳華癸、林巧稚*(女)、林鎔*、周廷冲、周沢昭*、邱式邦、張孝騫*、張香桐*、張致一、張錫鈞*、陸宝麟、金善宝*、鄭万鈞*、鄭作新、鄭国錕、俞大綬*、俞德浚、婁成俊、侯光燭*、侯学煜、鈕經義、趙洪璋*、趙善欽、鍾惠瀾*、施履吉、姚鑫、秦仁昌*、唐仲璋、殷宏章*、高尚蔭、徐冠仁、談家楨、諸福棠*、曹天欽、盛彤笙*、閻遜初、黃家駟*、黃禎祥、梁棟材、梁植權、謝少文、曾呈奎、鮑文奎、裘維藩、蒲墊竜、蔡旭、蔡邦華*、蔡翹*、熊毅、黎尚豪、潘菽*、戴松恩*、魏曠*、

地学部学部委員(75人)

丁国瑜、馬杏垣、王之卓、王仁、王日倫、王恒昇、王鈺、王鴻禎、毛漢礼、方俊、尹贊勳*、葉連俊、葉篤正、巫治錚、盧行豪、樂森璋*、閔士聡、劉

東生, 劉光鼎, 許傑*, 池際尚(女), 任美鐸, 朱夏, 孫殿卿, 吳汝康, 宋叔和, 李星学, 李春昱, 谷德振, 張文佑*, 張伯声, 張宗祜, 張炳熹, 周立三, 周延儒, 周明鎮, 岳希新, 陳永令, 陳国達, 陳述彭, 武衡*, 楊遵儀, 侯仁之, 趙金科, 施雅風, 徐仁, 徐克勤, 袁見齐, 翁文波, 賈蘭坡, 賈福海, 顧巧叙*, 顧知微, 高由禧, 高振西, 涂光熾, 郝詒純(女), 秦馨菱, 郭文魁, 郭承基, 黃汲清*, 黃紹顯, 黃秉維, 陶詩言, 謝義炳, 謝学錦, 董申保, 曾慶存, 曾融生, 程純枢, 程裕淇*, 傅承義*, 裴文中*, 譚其驥, 穆恩之,

技術科学部学部長委員(90人)

丁舜年, 馬大猷*, 干福熹, 王之璽*, 王大珩*, 王守武, 王守觉, 王補宣, 支秉彝, 毛鶴年, 史紹熙, 葉培大, 朱物華*, 師昌緒, 莊育智, 劉恢先, 劉盛綱, 任新民, 孫德和*, 畢德顯, 李文采*, 李国豪*, 李敏華(女), 李強, 李薰*, 吳仲華*, 吳自良, 吳学閻*, 吳良鏞, 蕭紀美, 戴愷*, 呂保維, 汪胡禎*, 汪聞韶, 沈鴻, 陸元九, 林為乾, 林蘭英(女), 芽以昇*, 孟少農, 鄒元熾, 張光斗*, 張作梅, 張沛霖, 張鍾俊, 張恩虬, 張維*, 張煦, 楊廷宝*, 楊嘉墀, 楊燾, 陳芳允, 陳宗基, 陳学俊, 陳能寬, 陳新民, 周志宏*, 周惠久, 孟昭英*, 邵象華*, 羅需霖, 柯俊, 胡海昌, 鄭哲敏, 徐士高, 徐芝綸, 徐采棟, 錢寧, 錢令希*, 錢鍾韓, 高慶錕, 高景德, 黃文熙*, 黃宏嘉, 郭可信, 章名濤*, 梁守燾, 陶亨成*, 曹建猷, 龔祖同, 常迥, 雷天覺*, 慈雲柱, 褚広瑛*, 蔡昌年, 蔡其鞏, 蔡金濤, 潘際奎, 潘家錚, 魏寿昆,

[北京3月29日発新華社=中国通信]学部長委員会の任務は, 科学院所属の各研究所に対する学術上の指導を行い, 国内・国外との学術交流を推進し, さらに科学技術の振興と問題について政府に助言することである,

今回の補充で, 委員の平均年齢は65歳に下がり, 中国の現代化にとって重要な, 多くの新しい研究分野の専門家が加えられた。新委員のうち48人は55歳以下, 15人は女性である。

原子力科学, コンピューター科学, 超小型電子技術, 分子生物学などの専門家が同委員会に入ったことは, 中国における過去30年間の科学の前進を物語っている。

同委員会には, 人民共和国成立後に育った次のような有名な科学者も含まれている。

周光召(52) 理論物理研究所所属。素粒子物理学, 統計物理学, 爆発物理学, プラズマ物理学放射線流体力学で著しい成果をあげた。

郝柏林(47) 理論物理研究所所属。統計物理学と固体状態理論の研究の指導者。

倪嘉纘(49) 長春応用化学研究所副所長。希土の抽出と分離および高圧イオン交換の業績で有名。

王元(数学研究所の整数論研究者) 楊楽(数学研究所の関数理論研究者) 姜伯駒(北京大学数学科の位相数学者) 谷超豪(復旦大学の微分幾何学教授) 盧佩章(大連化学物理研究所の分折化学研究者) 張存浩(大連化学物理研究所の化学レーザー専門家) 吳曼(中国医学科学院腫瘍研究所の細胞遺伝学者)。

また新委員には, 国家地震局の新地体構造地質学・地震構造研究者丁国瑜, 中国宇宙技術科学院の弾性力学研究者胡海昌両氏もいる。

中国国務院, 26単科大学の新設を認可

[北京8月31日発新華社=中国通信]中国国務院はこのほど, 単科大学26校の新設を認可した。内訳は工科系6校, 医科系2校, 師範系13校, 財政経済系4校, 体育系1校。校名と所在地は次の通り。

天津理工学院(天津市), 武漢都市建設学院(湖北省武漢市), 上海医療器械専科学校(上海市), 揚州工業専科学校(江蘇省揚州市), 江蘇化工学院(江蘇省常州市), 北京電子専科学校(北京市), 北鎮医学院(山東省北鎮県), 泰山医学院(山東省泰安市), 聊城師範学院(山東省聊城県), 運城師範専科学校(山西省運城県), 朝陽師範専科

学校(遼寧省朝陽市), 畢節師範專科學校(貴州省畢節県), 商丘師範專科學校(河南省商丘市) 零陵師範專科學校(湖南省零陵県), 滁県師範專科學校(安徽省滁県), 福州師範專科學校(福建省福州市), 泉州師範專科學校(福建省泉州市), 白城師範專科學校(吉林省白城市), 長春師範学院(吉林省長春市), 呼蘭師範專科學校(黒竜江省呼蘭県), 克山師範專科學校(黒竜江省克山県) 蘭州商学院(甘肅省蘭州市), 南京食糧经济学院(江蘇省南京市), 遼寧商業專科學校(遼寧省錦州市), 黒竜江財政專科學校(黒竜江省ハルビン市), 吉林体育学院(吉林省長春市)。

中国, ロケット1基で3衛星を打ち上げ

[北京9月20日発新華社=中国通信] 中国は9月20日, 1組の宇宙物理探査衛星の打ち上げに成功した。今回は中国としては初めて, 一基の運搬ロケットで3個の衛星が打ち上げられた。衛星は正確に軌道に乗り, 各システムは正常に作動しており, たえず地上に各種科学観測・実験データを送っている。

中国の人工衛星打ち上げ状況

1981年9月20日, 中国は初めて一基の運搬ロケットで3個の宇宙物理探査衛星を打ち上げた。これは中国が打ち上げた9個, 10個, 11個目の人工衛星である。

これ以前の8個の人工衛星の打ち上げ状況は次の通りである。

1970年4月24日, 最初の人工衛星が打ち上げられた。

1971年3月3日には, 科学実験衛星が打ち上げられた。

その後, 1975年7月27日, 11月26日, 12月16日, 1976年8月30日, 12月7日, 1978年1月26日 6個の人工衛星が相ついで打ち上げられた。

公表された資料によると, 70年4月24日に打ち上げた最初の人工衛星の重量は173キロだった。

同衛星の飛行軌道は近地点439キロ, 遠地点2384キロ, 赤道傾斜68.5度, 周期1時間54分だった。

71年3月3日に打ち上げた科学実験衛星の重量は221キロだった。同衛星の飛行軌道は, 近地点が266キロ, 遠地点が1826キロだった。赤道傾斜69.9度, 周期1時間46分だった。75年7月27日の人工衛星は近地点186キロ, 遠地点464キロ, 赤道傾斜69度, 周期1時間31分。75年11月26日の人工衛星は近地点173キロ, 遠地点483キロ, 赤道傾斜63度, 周期1時間31分。

75年11月26日の人工衛星は, 当初の計画通り地上に回収された。76年12日の人工衛星は, 当初の計画通り正確に地上へ回収された。78年1月26日の人工衛星は, 所定の計画通り科学実験任務を完遂し, 成功裏に地上へ回収された。[北京9月20日発新華社=中国通信]

北京の光通信試験システム, 順調に作動

[北京8月18日発新華社=中国通信] 今年2月に北京市86, 89両電話局の回線に長さ3.3キロの光ファイバー通信試験システムが据え付けられてから, すでに連続5カ月間使っているが, システム全体の作動状況は良好で, 中断したりするなどの事故は起こっていない。これは中国の通信技術が現代化に向かって踏み出した重要な一歩である。

この光ファイバー通信試験システムは北京の20余りの科学研究単位, 大学, 関係の工場が他省, 市の関係単位の支持を得て, 共同で研究, 製作に成功したものの。

中国の専門家は, この光ファイバー通信が将来郵電部門に広く応用されるだけでなく, 軍事, 経済, 科学文化, 人民生活にも応用されるものと見ている。

中国地震科学者がM8の富蘊大地震破壊現場を調査

[ウルムチ9月4日発新華社=中国通信] 中国の地震科学者は50年前, マグニチュード8の大地震が発生した新疆北部富蘊県の破壊されたままに

なっている現場を調査した。

1931年8月11日に発生したこの富蘊大地震は、今世紀中国大陸で発生した7回のM8の大地震の1つで、その余波は新疆北部、甘肅河西回廊モンゴルおよびソ連の広範な地区に及んだ。

富蘊大地震の調査は中国の地震科学研究の重点項目の1つで、1972年以来前後5回行われた。著名な地震地質学者丁国瑜中国科学院学部委員は最近野外調査を終えたのち、次のように指摘した。

新疆で見られた地震の破壊現場は、大陸内部の地震の破壊活動の法則を認識し、地震の発生過程、地震の原因を研究し、大地震の地質的特徴を見つめ、大地震の危険地域を確定し、地震の中長期予測、予報を展開するうえで極めて得がたい自然の科学実験場である。

今世紀中国大陸で発生したM8の地震7回のうち、6回は新疆のマナス、アルトゥン、チベットのザユイ、ダムジョン、甘肅の古浪、寧夏の海原で発生しているが、保存状態が富蘊ほどよいところは他にない。

中国の地下水資源は年間8000億トン

[北京9月14日発新華社=中国通信]いま北京で開かれている全国地下水資源評価経験交流会議で、中国で判明している地下水天然資源は年間8000億トンに達していることが明らかにされた。これは中国の4つの現代化建設と人民生活の重要な物質的基礎である。

地下水資源を明らかにするため、地質部門は50年代から、計画的に全国的規模で水文地質調査活動を始めた。これまでに青海チベット高原および一部の高山、砂漠などの地区を除いて、調査活動はほぼ完了した。水文地質調査の結果が示しているように、全国の地下水資源はかなり豊かで、分布が非常に広く、水質も非常によい。北部の穀倉地区である華北、松遼、閩中、銀川の各平原および山西の5大盆地などには、かなり厚い第4紀層が広く分布しているため、よい貯水条件を備えており、地下水資源が豊富である。初歩的な調査で

明らかにされたところによると、北部15省・直轄市・自治区および江蘇省北部、安徽省北部地区の地下水資源は年間3000億トンに達している。南部には、かなり豊かな地下水が埋蔵されている。南部各省・市・自治区の地下水資源は年間5000億トンに達している。

地質部の関係方面の責任者は新華社記者に対し、「建国以来、わが国の地下水資源の開発、利用は、工農業の発展と都市建設を促す面で重要な役割を果たしてきた」と指摘し、さらに次のように述べた。

だが、農業給水にせよ、統一計画と厳格な管理制度を欠いているため、地下水の開発・利用にはまだ深刻な無政府状態が存在しており、水源にいろんな破壊をもたらし、さらに一部の地区で水位の低下、水量の減少を招いている。

こうした状況に直面して、今後は水文地質条件と地下水資源の分布状況に基づいて合理的な計画を立て、水資源の管理を強化し、工農業生産と人民生活の日増しに増大する需要を満たさなければならぬ。

中国、希土類製品の生産・応用で成果

[ホフホト8月12日発新華社=中国通信]王増海、艾丁両記者・・今年大型の台風が広東に襲来した時、親指ほどの太さのアルミ合金高圧送電線がうどんのようにひきちぎられたのに反し、希土類を加えたアルミ合金高圧送電線は、狂風に身をまかせ、平然として今までどおり電流を送っていた。このように工業用品あるいは生活用品に希土類を加えて性能と品質をひき上げる新技術は、中国の工業部門で幅広く応用されている。

すでにわかっているだけでも、19省・自治区に希土類鉱があり、確認埋蔵量は諸外国の埋蔵量の総和の5倍に相当する。希土類工業も一応の規模をもち、生産工場は20余りあって、100種以上の規格の希土類製品を生産することができる。

現在、希土類は種々雑多な日用消費物資の中に

入りこんでいる。中国が従来生産していた家庭用鉄ナベはもろくて、ちょっとした不注意でこわれてしまったが、ここ数年に一部企業が希土類を加えた鑄鉄でつくったナベは、頭まで持ち上げて地上に落としても全く損傷がない。寒くなると、セーターが喜ばれるが、しかし常にチクチクとさす感触と洗った時に色があせやすいという問題がある。内蒙古第1毛紡績工場などで生産する、希土類酸化ユーロビウムの入った毛糸染色剤を使った毛糸は、光たくが良いばかりか、色があせず、そのうえ綿ネルのようにふわふわして柔らかい。これで編んだセーターは着ごちがよい。

希土類でつくった着色剤を衛生、美術、建築用陶磁に利用すると、色彩が鮮やかで、人々をひきつける。石油生産部門では、接触分解装置の触媒に希土類を使用することで、石油処理量を25%伸ばすことができる。近年の希土類サマリウム・コバルト永久磁石材料の医学への応用も、喜ばしいかぎりだ。内蒙古、北京、上海、武漢、広東などの医療機関で、希土類永久磁石材料を使った医療マグネットで、関節炎、高血圧、捻挫、神経性皮膚炎などポピュラーな10種余りの病気を治療し、著しい効果を見せた。

中国の希土類を含む鋼の新品種は、低合金鋼、高速度鋼、ばね鋼など20余りある。希土類を混入すると、金属に「ビタミン」を飲ませたようなもので、「不老長寿」になるのである。湖北・大冶製鋼所で生産する希土類トラクター・ギヤ用鋼は、従来のもより倍以上寿命が長く、また鞍山鉄鋼公司以生産する自動車構造用鋼は、希土類を混ぜるようになってから合格率が以前の20%からいっきに100%に上昇した。

中国、東海で天然ガス・オイル サンド発見

〔北京8月24日発新華社=中国通信〕中国地質部が24日発表したところによると、中国は東海(東中国海)に掘った第1号試掘井から、重層高圧天然ガスとオイルサンドを発見した。

この試掘井は北緯30度10分、東経126度5分の東海の竜井構造という地質構造を持った。上海の東南約460キロ、水深77メートルのところにある。試掘井の深さは3400メートル余である。

地質部の関係方面の責任者は「すでに入手した資料によると、中国東海海域の堆積盆地の面積は松遼平原と華北平原をたした面積の総和に相当し堆積の厚さが大きく、石油根源岩がある。この試掘井から得た資料が立証しているように、この地域の石油・ガスの埋蔵量の見通しは明るい」と述べた。

海南島で総合科学調査 中国の自然科学者と経済専門家

〔北京9月7日発新華社=中国通信〕国家科学技術委員会、国家農業委員会、中国科学技術協会は、今秋自然科学者と経済専門家を組織して、多学科にわたる総合科学調査を行い、海南島の熱帯資源を一段と合理的に開発・利用するための科学データを提供することを共同で決定した。

この科学調査の準備作業はすでに基本的に終わっている。海南島に派遣された先発隊は1カ月にわたる初歩的な調査を終え、すでに「海南島開発の現状と問題点」という総合報告、海南島の農業経済構造、林業、熱帯作物および動植物等に関する8つのテーマ別報告をまとめており、次の本調査のためにしっかりとした基礎を固めた。

海南島は熱帯の北端にあり、天然資源が豊富で社会主義建設で非常に重要な地位と役割を持っている。解放後30年余の間に、同島の建設は一定の成果をあげた。だが過去においては左の思想の影響と歴史的条件的制約を受けて、同島開発の方針と政策をめぐる問題はなかなかうまく解決されなかった。この数年、同島の一部の地方で森林の破壊、乱開発が進み、水土の流失、生態環境の破壊がもたらされ、珍しい動植物も害をこうむった。

中国の科学技術陣を幅広く動員して、同島の開発・建設をめぐる問題を検討し解決するため、国家科学技術委、国家農業委、中国科学技術委は今

年5月、中国生態学会、中国地理学会、中国植物学会、中国農学会、中国熱帯作物学会、中国林学会など16の関連学会に委託して、自然と経済の方面の科学者を組織し、今秋同島について多学科にわたる科学調査を行うことを共同で決定した。調査の主要内容は①農業、林業、牧畜業、副業、漁業、熱帯作物およびエネルギー、交通輸送などの配置を含め、海南島の生態系バランスの維持および天然資源を持続的に利用する道をさぐること、②全島の総合自然区分を行うための科学的データを提供すること、③自然と天然資源(動物・土壌など)を保護することの特殊な意義と方法をさぐること、④海南島を一段と開発・建設するための科学研究課題を研究し、提出すること、である。

中国の早稲、昨年比 100万トンの増産

[北京8月31日発新華社=中国通信]中国では夏取り入れ食糧の豊作に続き、1100万ヘクタールの早稲も豊作となった。関係部門の予想によると、今年早稲は作付面積が昨年より40万ヘクタール減少しながら、単位面積当たり収穫量の増加により、総収穫量は昨年より100万トン余りの増産となって、5000万トン以上になる見込み。

今年、早稲生産地区では、農作物の分布を引き続き合理的に調整し、早稲面積を圧縮し、中稲と工芸作物の作付け拡大に回して、作付体系をさらに合理化した。多くの稲作地帯では、労働力、肥料および肥培管理面で科学的営農をし、単位面積当たり収量の引き上げに力を集中した。さらに今年は各地で収穫高と連動した報酬計算などさまざまな形態の生産責任制が広く推進され、大衆の意欲が高かった。このため、早稲の全栽培期間を通して、各種の増産措置が例年よりよく講じられた。

今年、早稲生育期間に、一部生産地の気象条件が比較的よかったことも豊作が保証された原因である。早稲の生育にとって重要な5、6月、長江中下流の各省は基本的に長雨・低温の天気がなく湖南、安徽、江西、湖北、浙江各省の増産幅はか

なり大きくなった。一方広西、広東、福建、江蘇四川各省・自治区では、水害、病虫害または作付面積の大幅減少により、収穫量は昨年不及ばなかった。

北京心胸外科シンポジウム始まる

[北京9月20日発新華社=中国通信]内外の心胸外科専門家200人近くが参加する北京心胸外科シンポジウムが20日午前、北京科学会堂で開催した。

これは中華医学会外科学会と米国ライマン・ブルーアー国際外科学会が共催するもので、ブラジル、カナダ、中国、フランス、西ドイツ、スウェーデン、スイス、米国、香港の有名外科医が参加している。

銭信忠中国衛生部長・中華医学会名誉会長、黄家駟中国医学科学院院長・首都医科大学学長、米国の有名な心胸外科専門家ライマン・ブルーアー教授が開会のあいさつをし、次のように述べた。
◇銭信忠部長 このシンポジウムは中国医学界と国際医学界との理解を促進するとともに、共同で学術レベルを高めていくのに役立つであろう。

心胸外科および心臓血管疾患の予防・治療は中国でますます重視されつつある。例えば食道ガン高血圧などの疾患について一斉調査が行われ、早期発見、早期診断、早期治療に努力している。中国ではすでに、フアロー4徴症を含む先天性心臓病の内部修復手術について一定のレベルをもった専門家を多数養成している。近年、中国の多くの地区では、人工弁膜の置換、心室壁瘤の切除、冠状動脈のバイパス作り、主動脈瘤切除および人工置換などの新しい技術、乳幼児心臓血管手術の臨床、研究をくり広げている。

◇黄家駟院長 世界で心胸外科が始められたのは比較的遅かったが、発展は非常に速い。かつての「手術のタブー」はつぎつぎに打破されているものの、未解決の問題も少なくない。手術のあるものの死亡率はまだなお高く、手術後の併発症も少なくない。このシンポジウムで、国際的に有名な

心胸腔外科の専門家が共に関心をもつ問題をいっしょに討論し、彼我の経験を交流できるのは非常に有益である。

◇ブルーアー教授 このシンポジウムは各国の関係および友情を強めるのに非常によい機会を与えた。これが終わったあと、各位が国際協力の関係を強めるといふ願いをもちそれぞれの病院あるいは医学部に帰られるよう望む。

なお、このシンポジウムの組織委員長は黄家駒院長とブルーアー教授。

シンポジウムには、心臓弁膜置換、血液外科、冠状動脈外科、先天性心臓病外科、食道ガン外科治療などの内容を含む論文58編が提出された。うち中国の外科専門家が出したのは17編。そのうちの1つは、北京の辛育齡教授のハリ麻酔の肺切除における応用についての報告である。辛教授が指導にあっている北京市結核病研究所では、1965年から81年春までに、ハリ麻酔による肺切除手術を1200例も行っており、成功率は96%にのぼっている。

シンポジウムは24日に終わる。

華東地区科学技術協力網が設立

華東地区科学技術協力網が正式に設立された。これは最近徐州で開かれた華東地区省・市科学技術委第1回合同会議で決まったもの。

昨年11月の全国科学技術会議期間中、華東地区6省1市の科学技術委員会の代表は、相互間の協力関係を確立するよう提案するとともに、今年5月上海で準備会議を開いた。

今回の合同会議で、華東地区の6省1市が毛織物、化学繊維織物のプリントおよび仕上げ技術、木材利用率・果物の鮮度保持技術の向上など10の研究項目について協力を進めることが取り決められた。また相互間でいかに科学技術情報・成果の交流を進めるかについても合意を見た。(南京22日発)

中国特有の「黒頸鶴」の調査終わる

21日付「光明日報」によると、中国だけに住む珍しいツル「黒頸鶴(学名=Grus nigricollis)」の調査が終了し、その生態がフィルムに収められた。この調査は中国の鳥類学者が青海チベット高原で3年間にわたって進めてきたもの。現在、黒頸鶴の数はわずかに200羽余りで、パンダ同様に国家によって保護されている。

中国林業部が青海省の24の湖沼に派遣した科学者は、2万1000キロを移動しながら黒頸鶴を観察、撮影し、貴州省にある越冬場所をつきとめた。鳥類学者は、この鳥の巣、卵だけでなく越冬地も保護しなければならない、と言っている。(南京22日発)

安徽省で揚子江ワニの保護

地球上に現存する最古の動物の1つ、「生きた化石」と呼ばれる揚子江鱷(Alligator Sinesis)が「古里」の安徽省宣城で保護され始めた。今年春から夏にかけて、省南部はひどい日照りに見舞われ、多くのため池が干上がって、ほら穴が露出し、揚子江鱷は隠れ家から水や食物を求めて続々とはい出てきた。広範な大衆は生存の危機にさらされているのを見て、水の豊かな場所に鱷を放した。国の保護機関に手渡した者はさらに多かった。

県の養殖場には大小様々な揚子江鱷116匹が人工池で泳いだり、はい回ったりしていた。これらはすべて地元の大衆の手で保護されたもの。成鱷は通常体長2メートル前後、背中に角質のウロコがあり、体重は最大のもので20.75キログラムに達する。多産で、1度に21個の卵を産むこともある。卵は円形で、最大で75グラム、小さいものは45グラムほど。この養殖場では200個の卵を人工ふ化している。(合肥20日発)

1981年版「日本」(中国語の科学技術者向け日本案内)残少数、入用の方は早めにお申込み下さい。(頒価一部千円、会員2割引)